

臨床検査科・病理診断

眞能正幸

臨床検査科・病理診断科は当センターに与えられた医療を推進するため精度保証された医療情報を迅速に医療現場に提供することを使命としている。職員は医師2名（臨床検査管理医1名、病理専門医1名）、臨床検査技師39名（非常勤技師9名含む）と検査助手2名で構成されている。また、高度な専門的病理診断に対応するために6名の病理専門医を招聘している。日本臨床検査医学会、日本臨床細胞学会や日本環境感染症学会の認定をうけ、認定輸血検査技師指定施設でもある。

『精度管理』 臨床検査の精度は検査前から始まることより外来部門での採血を実施している。外部精度管理として複数の全国規模の調査に参加している。また、輸血検査（認定技師4人）、細胞検査（同6人）、細菌検査（同1人）や超音波検査（同4人）はそれぞれの専門学会が認定した技師がその任務にあたり、そして人材育成にも力を注いでいる。

『緊急検査』 緊急検査は夜間・休日(二交代一名)を含めた24時間体制で対応している。生化学検査、感染症検査、血中薬物検査、血液学的検査、凝固検査が含まれ、三次救急を含む救命救急医療に貢献しており、その取扱件数は年々増加の一途をたどっている。輸血検査は管理当直者を配置し、輸血のための血液型、クロスマッチ検査に対応して当直を行っている。また、診察前検査にも対応して日常の外来診療の充実に尽力している。

『輸血管理』 血液製剤の発注・検査・払出し等、輸血管理業務のすべてを検査科で一元管理することで、システムの強化、リスクの軽減を図り、適正な血液製剤の安全供給を行っている。また、副作用、使用状況や廃棄製剤などの情報を輸血療法委員会に提供することにより、さらなる血液製剤の安全かつ適正な輸血の遂行に貢献している。

『院内感染防止』 院内の診療レベルを図る上で院内感染対策がどの程度徹底しているかは大きな評価ポイントである。臨床検査科から感染情報を臨床側に対し、リアルタイムで定期的に情報発信するとともにICTの主要メンバーとして中心的役割を果たしている。

『病理検査(病理診断科)』 複雑な標本作製過程を少ない人数で安定して出来るよう積極的に機械化を進め作業環境の改善のため、安全キャビネットや、プッシュ・プル換気装置付の切り出し台も設置した。術中迅速診断を含む日常業務だけでなく、臨床各科とのカンファレンスや臨床病理検討会(CPC)などを通して、研修医の教育や、診療レベルの向上にも寄与している。

『生理検査』 患者の身体から出ている生体信号を調べる検査であり、循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系、聴覚系等の様々な分野の検査を実施している。直接に患者様と接する検査であるため、待ち時間を少なくし、意思の疎通を図ることを心掛け、迅速に正確な検査を提供できるように努めている。(文責：田中恒二、眞能正幸)

【2010年度研究発表業績】

A-0

Kurotsuchi A, Murakumo Y, Jijiwa M, Kurokawa K, Itoh Y, Kodama Y, Kato T, Enomoto A, Asai N, Terasaki H, Takahashi M. Analysis of DOK-6 function in downstream signaling of RET in human neuroblastoma cells. *Cancer Sci.* 2010 May;101(5):1147-55. (2010年5月)

Masuda H, Masuda N, Kodama Y, Ogawa M, Karita M, Yamamura J, Tsukuda K, Doihara H, Miyoshi S, Mano M, Nakamori S, Tsujinaka T. Predictive factors for the effectiveness of neoadjuvant chemotherapy and prognosis in triple-negative breast cancer patients. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2010 Jul 1. [Epub ahead of print] (2010年7月)

Nakazuru S, Yoshio T, Suemura S, Itoh M, Araki M, Yoshioka C, Ohta M, Sueyoshi Y, Ohta T, Hasegawa H, Morita K, Toyama T, Kuzushita N, Kodama Y, Mano M, Mita E. Poorly differentiated endocrine carcinoma of the pancreas responded to gemcitabine: Case report. *World J Gastroenterol*. 2010 Aug 14;16(30):3853-6. (2010年8月)

Ozaki T, Ueda T, Wakamatsu T, Kakunaga S, Iwasa Y, Konishi E, Mano M, Moriuchi S. Intramedullary spinal cord metastasis following spontaneous malignant transformation from giant cell tumor of bone 16 years after pulmonary metastasis. *J Orthop Sci*. 2011 Jan 20. [Epub ahead of print] (2011年1月)

A-3

永松麻紀、東祥子、池田彩、野口史人、小澤健太郎、田所丈嗣、中森正二、児玉良典：ドレーンによって implantation された膵癌の皮膚転移の1例「皮膚の科学」9(4): P.387-390、2010年8月

山田麻美、宮崎道彦、安井昌義、池永雅一、三嶋秀行、中森正二、辻仲利政、竹田雅司、眞能正幸：尖圭コンジローマ充満痔瘻の1例「日本大腸肛門病学会雑誌」64(2)：P.93-96、2011年2月

B-4

安藤性實、小河原光正、宮本智、山子泰斗、中塚梨絵、大宮英泰、高見康二、田中英一、栗山啓子、児玉良典、眞能正幸：気管癌の小細胞癌と診断した一例。第33回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、横浜、2010年6月

原尚志、増田慎三、小川昌美、田中麻紀子、荻田真子、糸山光麿、児玉良典、眞能正幸、中森正二、辻中利政：センチネルリンパ節の術中細胞診診断法の有用性に関する検討。第18回日本乳癌学会総会、札幌、2010年6月

吉田謙、田中英一、吉田岑雄、武中正、山村順、田中麻紀子、小川昌美、徳田由紀子、竹田雅司、児玉良典、眞能正幸、増田慎三：35歳以上の乳房温存術後組織内照射。第18回日本乳癌学会総会、札幌、2010年6月

山村順、増田慎三、田中麻紀子、小川昌美、荻田真子、児玉良典、眞能正幸、中森正二、辻中利政、竹田雅司：術前針生検診断の精度と認容性。第18回日本乳癌学会総会、札幌、2010年6月

小川昌美、増田慎三、山村順、田中麻紀子、荻田真子、児玉良典、竹田雅司、徳田由紀子、吉田謙、眞能正幸、中森正二、辻中利政：センチネルリンパ節に micrometastasis を認めた際、郭清すべきか。第18回日本乳癌学会総会、札幌、2010年6月

安藤性實、小河原光正、宮本智、山子泰斗、中塚梨絵、大宮英泰、高見康二、田中英一、栗山啓子、児玉良典、眞能正幸：気管癌の小細胞癌と診断した一例。第33回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、横浜、2010年6月

木村剛、小河原光正、宮本智、安藤性實、井上千英子、大宮英泰、高見康二、栗山啓子、児玉良典、眞能正幸：シスプラチン・ペメトレキセド併用化学療法により長期間にわたり奏功が持続した悪性胸膜中皮腫の1例。第51回日本肺癌学会総会、広島、2010年11月

上平朝子、矢嶋敬史郎、小川吉彦、谷口智宏、笠井大介、坂東裕基、米本仁史、渡邊大、西田恭治、児玉良典、眞能正幸、白阪琢磨：当院における HIV 関連リンパ腫についての検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京、2010 年 11 月

坂東裕基、笠井大介、米本仁史、小川吉彦、矢嶋敬史郎、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、児玉良典、眞能正幸：脳生検で診断されたトキソプラズマ症の一例。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

佐子肇、吉川耕平、菅原純、木下幸保、田中恒二、眞能正幸：黒色真菌症(*Exophiala* 属)の簡易検査法。第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010 年 11 月

吉川耕平、菅原純、佐子肇、木下幸保、田中恒二、眞能正幸：Taq-man 法の基礎的検討と有用性。第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010 年 11 月

山本賢、岩谷泰之、溝上泰司、古屋晃子、河野明、田中恒二、眞能正幸：-D-血液を輸血し新たに抗 Rh37 (EVANS) 抗体を産生した-D-血液型の 1 例。第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010 年 11 月

B-6

松延大樹、竹立精司、山下保喜、岡田都史、岩谷泰之、河野明、田中恒二、眞能正幸：化学自動分析装置を用いた血清中の亜鉛の測定の基礎的検討。平成 22 年度 第 37 回国立病院臨床検査技師協会近畿支部学会、大阪、2010 年 6 月

坂東裕基、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、吉岡千晶、葛下典由、中野知沙子、和田晃、児玉良典、眞能正幸：基礎疾患に肝硬変を有する重症新型インフルエンザ(H1N1)の1例。第192回日本内科学会近畿地方会、大阪、2010年9月

水谷麻紀子、増田慎三、山村順、埜中正博、苅田真子、吉田謙、田中英一、徳田由紀子、児玉良典、中森正二、辻仲利政：Lapatinib+Capecitabine 療法で脳転移の病勢を抑えることができた HER2 陽性乳癌の一例。第 8 回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2010 年 12 月

三賀森学、高見康二、大宮英泰、松野裕旨、山村順、増田慎三、小河原光正、栗山啓子、児玉良典、眞能正幸、中森正二、辻仲利政：乳癌手術中に発症した気胸を契機に発見された肺癌の1例。第93回日本肺癌学会関西支部会、神戸、2011年2月

安藤性實、小河原光正、宮本智、木村剛、大宮英泰、高見康二、栗山啓子、児玉良典、眞能正幸：扁平上皮癌と小細胞癌を同側肺に同時に認めた重複癌の一例。第93回日本肺癌学会関西支部会、神戸、2011年2月